

丹波溪谷エリア

丹波山村の西端にあり甲州市との境までのエリアで道の駅たばやまから約8 KM。ストレートに向かえば30分ほどで行けますが、途中のみどころはたくさんあって、時間を忘れてしまうことでしょう。

奥秋エリアを後にして間もなく、吊り橋型の山吹橋が左眼下谷奥に見えてきます。国道右手に駐車場がありますが、電動アシスト自転車なら、らくらくと橋まで下りて行くことができ、丹波山の溪谷を橋から見下ろすことができます。

ナメトロはポスターでもよく見かける、丹波溪谷の代表的なビューポイントです。冬場は日陰になるのが早いので、できれば午後2時を過ぎないうちに立ち寄りたい場所です。

羽根戸の乗越し岩～三条河原まで旧青梅街道から今の道路になった箇所が多く、トンネル内は特に走行に注意してください。音にもびっくりするかも知れませんが、くれぐれも安全地帯を走行してください。この区間は特に溪谷が深く、見晴らしポイントが少ないのですが、安全なところでは山々の紅葉や芽吹きをお楽しみください。大きな岩や曲がりくねる水が川をデザインし、昇仙峡もびっくりの丹波山村自慢の川の風景を目に焼き付けて。

三条河原へは、国道を逸れた道を下ります。溪流散策をするならこちらへ。尾崎行雄記念碑を折り返し地点として、たっぷりと季節の景色を堪能できますよ。



三条橋からの青梅街道



夏のナメトロ

秋のナメトロ

羽根戸の
飛び越し岩



高尾・押垣外エリア

村の中では唯一の平地が広いエリアです。縄文時代の住居跡が発掘されたことから、古くから住みやすい土地だったのかもしれませんが。だから散策にはもってこいの場所。自転車でなくても気持ちよくお散歩ができます。

高尾（地元では成畑＝なりはた＝という地名も含めたりします）と押垣外は畑が多いのですが、その畑は電柵が張り巡らされています。シカやサル、ハクビシンなどによる獣害を防ぐためのものですので、どうか高圧電流に触れないようにお気を付けください。また、畑は個人所有の土地ですので、許可なく入らないようにしてください。

高尾の大六天神社を西のはずれ、押垣外の川上神社を東のはずれとして、エリアはとても狭いですが、路地や農道がたくさんあって、楽しい散歩コースです。野の花や土の香りも楽しめるでしょう。道端に雑木のように生えているものも、実は山菜の時期には新芽を吹かせる宝の木だったり、家々の庭先に植えられた山野草が可憐だったり、冬支度の渋柿つるしが見られたり、のどかな日本の原風景を思い出すことができる集落です。

名物ローラーすべり台はこの地区、郷土民俗資料館の先にあります。



奥秋・水源の里エリア

かつて宿場町 丹波宿として栄えたこの場所。昭和の時代まで旅館には多くの観光客が宿泊し、夏は川遊びなどで賑わいがありました。

もともとは武田信玄の時代までさかのぼり、武田家の機密とされていた金山発掘で深く関わってきました。

丹波山村の民話・むかし話の中でも一番知られている「おいらん淵」は、武田家滅亡の折に生まれた悲劇のお話ですが、そのおいらん達を奉ったお堂が奥秋のはずれにひっそりと建っています。

このエリアは家々が多く、細い路地や急な坂道が巡っており、まさに田舎のおばあちゃんに会いに来たような感覚で散歩を楽しむことができます。力だめしに急坂をチャレンジしたり、パン屋さんでお買い物したり、古民家カフェで一休みしたりと小さいエリアではありますが、楽しみはたくさん作ることができます。

そのほかおすすめは、知る人ぞ知るヒーリングスポット、雄滝雌滝。真夏でも涼しく、マイナスイオンを感じることができます。真冬になると一部が凍り、沢は眠ったような



雄滝雌滝



おいらん堂



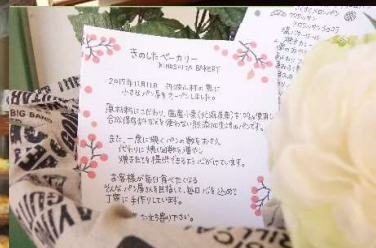
メロディー橋



やまびこ食堂



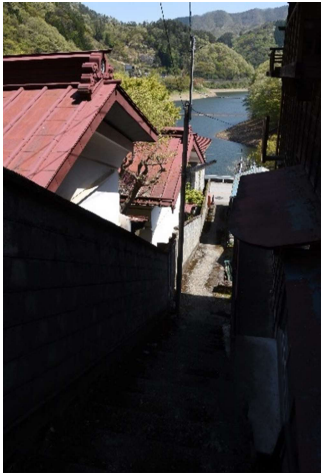
きのしたベーカリー



陶芸茶房亀泉庵



所畑・鴨沢エリア



東京都奥多摩町に隣接する山梨県の玄関口、鴨沢。奥多摩湖はここから始まります。湖望閣という名前がいまも刻まれている建物は、昔造り酒屋だったところ。この建物の裏手にある道を行くと、奥多摩湖の一部が一望できます。七ツ石山・雲取山登山道をあげればさらに素晴らしい眺望。腹ペコ登山者の胃を満たしてくれるのは味がよくてボリューム満点のバス停前にある「木漏れ日。」ついつい、バスの時間を乗り過ぎてしまいそうなほど居心地がいい。

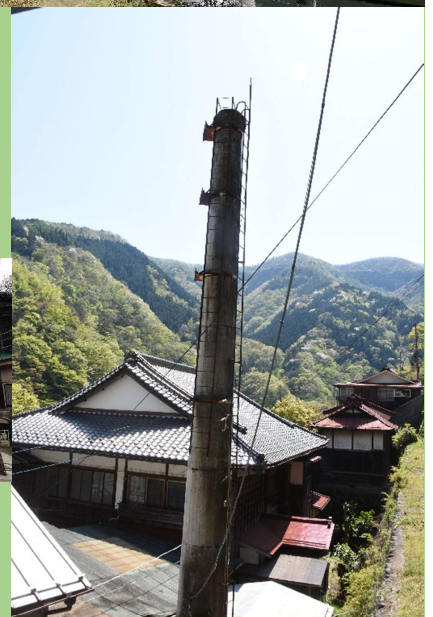
すこし丹波寄り（甲州方面）に足を向ければ、自家製餡でつくるお汁粉が食べられる山の休憩所かゑる。山好きの店主の佇まいや話が面白いと噂です。

小河内ダム（奥多摩湖）建設の時代、丹波山村鴨沢地区に住んでいた住民の多くが立ち退きを命ぜられ、持ち家を手放した話は世間ではあまり知られていませんがそれらの人々が清里に移り住み、開拓をし、今のような八ヶ岳地方のリゾート地の基礎を作っていました。

このエリアで見どころのもう一つは、諸畑橋から見上げる所畑地区。斜面に建つ家が山道で繋がっている様が見えます。この斜面や周りの山々が赤や橙、黄に染まり、風がない午前中は手前の奥多摩湖に鏡のように映ります。おすすめの写真スポット。

所畑バス停付近の坂道を上ると奥多摩湖を俯瞰で臨むことができ、諸畑橋の架かった湖が眼下に見えてきます。急坂ですので上り下りには十分注意してください。

電動自転車のバッテリーにはご注意ください。丹波・道の駅に帰るには国道は上り坂となります。

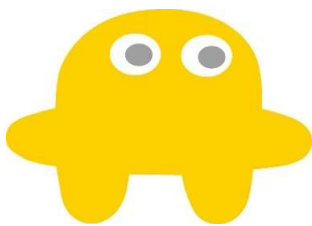


保之瀬エリア

丹波エリアを東京寄りに進みます。下り坂なので5分程で上保之瀬バス停まで。そこから、一瞬ためらうような坂道を下ると、味わいのある橋が見えてきてここが集落の入口となります。

村で現存する史跡で一番古いとされている（推定は鎌倉時代）薬師如来像を祀った薬師堂があり、山寺（法興寺）とともに保之瀬集落を見守っています。ここへ上る階段も趣あり。ただし、5月の祭礼でしかお堂を開けないので、そっとしてあげてくださいね。

保之瀬は谷あいの土地を利用して家が建ったり、畑をつくったりしていますので、急峻に開けた要塞のような集落です。



丹波宿エリア

中里介山『大菩薩峠』で有名な大菩薩嶺への起点ともなっていたことで、甲州裏街道として多くの旅人がこの村を行き来した名残を味わうことができるエリアです。

現在は青梅街道として、東京方面から塩山・石和・甲府などへ抜ける車やオートバイ、自転車のツーリングにも人気があります。

かつては宿場町として大変栄えた場所ですが、趣きを知るのなら裏道を散策するのがおすすめです。路地を巡れば井戸があり、村の生活の一部を伺うことができます。



道の駅エリア



道の駅たばやまの場内には、軽食堂の青梅街道丹波山と農林産物直売所、そして評判の丹波山温泉のめこい湯があります。

青梅街道丹波山では、名物の鹿肉を使った“鹿ばあーがー”をはじめ鹿肉を手軽に食べることができます。丹波山のおいしいジャガイモで作った手作りのタバスキーポテトも美味しい。

直売所では、丹波山村産の野菜や、鹿ソーセージ、鹿カレーなどココでしか買えない商品があります。二ホンミツバチのはちみつは100%自然の甘さで美味しいです。TABAVEJというタグのついている丹波野菜もぜひお土産にどうぞ。地元の人が丹精込めてつくりました。

吊り橋を渡りながら丹波川の風にあたってリフレッシュ。のめこい湯のつつるした肌触りのお湯をぜひお試しください。温泉は木曜日定休で、午後7時閉館です。

レンタサイクルの貸し出し受付は観光案内所にて。（1時間¥100で夕方5時までの返却）車より、自転車での村めぐりをしたほうが絶対おもしろい！おすすめです。

